


和歌山県内経済情勢報告

(令和8年1月判断)

1. 総論

【総括判断】「緩やかに持ち直しつつある」(判断を上方修正)






項 目	前回 (7年10月判断)	今回 (8年1月判断)	前回 比較
総括判断	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	

(注) 令和8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にあるほか、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっているなど、全体としては、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回 (7年10月判断)	今回 (8年1月判断)	前回 比較
個人消費	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	
設備投資	7年度は前年度を下回る見込み	7年度は前年度を下回る見込み	
企業収益	7年度は増益見込み	7年度は増益見込み	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、身の回り品の売上げが減少しているものの、値上げの影響で客単価が上昇していることから、飲食料品の売上げが増加している。

コンビニエンスストア販売は、客単価の上昇の影響に伴い売上げが増加している。

ドラッグストア販売は、客単価の上昇に加えて、食料品の売上げが堅調に推移していることから、売上げが増加している。

ホームセンター販売は、前年の防災用品や防犯用品の売上げ増加の反動減などにより、前年の売上げを下回っている。

家電大型専門店販売は、パソコンなどが好調となっていることから、前年の売上げを上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、一部車種での納期の長期化などの影響もあり、前年を下回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、中国人観光客が減少している地域がみられるものの、観光客数が堅調に推移しており、緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 物価高の影響で1点単価は上昇しているものの、節約志向の高まりによって買上げ点数が減少しているという状況が継続している。(百貨店・スーパー)
- 身の回り品については、11月に前年の反動減がみられ、12月に入ってからインバウンド需要の低下がみられている。例年好評なイベントでは前年を上回る売上げとなっているなど、メリハリ消費の動きがみられており、食料品の売上げ増加の一因となっている。(百貨店・スーパー)
- 来店客数や買上げ点数が減少しているものの、物価高の影響により客単価が上昇している。食料品について、販売数量は減少しているものの、商品の価格が前年と比較して上昇していることから、売上げは前年を上回っている。(ドラッグストア)
- パソコンについて、OSのサポート終了直前となった前期ほど好調ではないものの、当初の想定に比べ売上げは減速しておらず、今期も引き続き好調となっている。(家電量販店)
- 節約志向により消費者の買替えサイクルが長期化していることや、メーカーの生産が需要に追いついていない状況などが要因となり、販売台数が低迷しているとみられる。(自動車販売店)
- 宿泊人員について、中国人観光客の訪日自粛に加え、物価高などによる影響から11月は前年を下回っているものの、12月は前年を上回っている。また、中国人観光客について、団体での予約は減少しているものの、個人での予約は増加傾向にある。(観光関係団体)
- 物価高による家計負担の増加などによって来店客数は減少しているが、価格改定の効果もあり、売上げは前年を上回る水準となっている。(飲食サービス)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数でみると、「機械工業」などは上昇しているものの、「鉄鋼業」などは低下しており、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 米国において新たな環境規制が適用される予定であることから、適用前の駆け込み需要を受けて9月末頃まで一時的に生産量が増加していたが、10月以降は生産量が落ち着いている。(金属製品)
- 東南アジア向けについては好調となっている一方で、中国向けについては、中国国内の景気低迷や現地メーカーとの競合により、引き続き低調となっている。(生産用機械)
- 台所用洗剤などで生産量が増加しているほか、海外向けを中心に電子材料関連製品の需要が好調を維持している。(化学)
- 大量生産による原価率の抑制を目的として生産設備を拡充しており、入浴剤や洗浄剤などの生産量が増加している。特に、節約志向が高まる中で、お得感がある大容量商品の需要が高まっている。(化学)
- 物価高騰や人手不足の影響を受け、工事の着工遅れが生じており、国内の鉄鋼需要の低迷が継続している。(鉄鋼)
- 販売価格の引上げを行った中でも売上げは好調となっており、在庫に余裕がないことから、生産量を増やしている。(食料品)

■ 雇用情勢 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

有効求人倍率は、低下傾向にあるものの、求人が求職を上回って推移している。また、新規求人数は、おおむね横ばいで推移しており、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 梅の不作の影響で「農、林、漁業」などの求人数が減少していることや、物価高騰の影響で年金受給者などの求職が増加していることなどを受けて、有効求人倍率が低下している。(公的機関)
- 従来は、和歌山県内の工業高校出身の生徒を採用できていたが、高卒で就職を希望する生徒が減っていることなどから人材確保が難しくなっており、県外の高校で採用活動を行う機会も増えている。(鉄鋼)
- 人手不足の状況が継続しており、主に民間求人サイトを活用して募集を行っているが、充足する見通しが立っていない。(百貨店・スーパー)
- 営業スタッフについて、全体としてみれば人数は適正であるものの、年齢構成に偏りがあり、管理職を担うことができる年代の社員が不足している。(自動車販売店)
- 現場監督が不足しており、募集を出しても、建設業界内で人材の取り合いとなっていることから採用に繋がらない。現場の体制を踏まえて工事の受注可否を判断しているが、人員不足によって受注を見送ることも増えている。(建設)
- 繁忙期などで人員が確保できない際には、スポットワーカーで従業員を確保することもある。(飲食サービス)

■ 設備投資 「7年度は前年度を下回る見込み」

法人企業景気予測調査(令和7年10~12月期調査)でみると、7年度の設備投資は、全産業で前年度を下回る見込みとなっている。産業別では、製造業で前年度を上回る見込みとなっているものの、非製造業で前年度を下回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査(令和7年10~12月期調査)でみると、7年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で黒字転化見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、分譲で前年を上回っているものの、持家、貸家で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、市町村で前年を上回っているものの、国、県、独立行政法人等で前年を下回っている。

■ 企業倒産 「倒産件数は前年を上回っているものの、負債総額は前年を下回っている」

倒産件数は前年を上回っているものの、負債総額は前年を下回っている。

■ 景況判断 「「上昇」超となっている」

法人企業景気予測調査(令和7年10~12月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「上昇」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「上昇」超となっている。

規模別では、中小企業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、大企業、中堅企業で「上昇」超となっている。